



あのマチ
このムラ
・地域おこし活躍中

No.35

月形町の事例

— みんな心に花がある 「花の里」 をめざす —

月形町の沿革と概況

月形町は空知管内の南西部を占める樺戸郡の最南端に位置し、国道二七五号により札幌市へは五〇km、岩見沢市二〇km、厚田村の日本海岸線に二〇kmの距離にある。

南東は石狩川をへだて美唄市及び空知郡北村に接し、北西から西南にかけては石狩郡当別町及び新篠津村、北は浦臼町にそ

れぞれ接し一五・六km、南北一九・五km、町の総面積は一五一・〇五km²である。

土地は町の総面積の六〇%が森林で、増毛山麓に源流を発する須部都川、札比内川、厚軽臼内川、中小屋川の清流は、石狩川に注いでいる。

気候は内陸性の特性を持ち七月〜八月の平均気温は二〇〜二二度ぐらいで、一〜二月の気温もマイナス七〜九度程度であり、四季を通じて昼夜の温度差は著

しいものの、概して温和な気候である。

年間降水量は一、四〇〇mm前後で初雪は十月下旬ごろ、融雪時期は概ね四月中旬となっている。

月形町は、明治十四年石狩川右岸の未開地に明治政府によって国事犯や凶悪犯を収容するために樺戸集治監が設置され、この地を開拓するために移住してきた人たちによって空知管内最初の村が開村された。

初代典獄に就任したのが月形潔で月形町の名前は彼の姓をとって命名されたものです。

人口は四、二九四人、世帯数一、七〇八世帯（平成十五年十一月末現在）人口及び世帯数の推移は表1のとおり。

産業別就業人口は第一次産業七九六人、第二次産業三四五人、第三次産業一、一四三人（五〇%）と年々第三次産業の占める割合が増加している。（平成十二年国勢調査）

表1 人口および世帯数の推移

単位：人

	昭和45年	50年	55年	60年	平成2年	7年	12年
全町人口	6,737	6,199	5,599	5,538	5,125	4,869	4,505
総世帯数	1,585	1,532	1,505	1,625	1,693	1,722	1,694
農家人口	3,281	2,602	2,324	2,127	1,815	1,567	1,404
農家世帯数	646	559	522	495	426	366	343

表2 産業別就業人口

単位：人

	昭和45年	50年	55年	60年	平成2年	7年	12年
第一次産業	1,822	1,376	1,216	1,096	974	864	796
第二次産業	606	542	499	440	426	403	345
第三次産業	1,126	1,094	1,112	1,176	1,188	1,196	1,143
合計	3,558	3,012	2,827	2,712	2,588	2,463	2,284

産業別就業人口の推移は表2のとおり。

月形町の

目指すべき将来像

はなの里つきがた

(一)花とやすらぎの

まちづくり

花は、月形町を代表する産物であり、町の文化に彩りを添える自然からの恵みです。また、花は人の心に安らぎと豊かさを与えてくれます。

恵みある花に調和する快適でやすらぐ生活がすごせるような町を目指します。

(二)元氣と希望あふれる

まちづくり

町の活性化と町民の幸せを達成するために、生活基盤や、環境の整備とともに、経済・産業

の向上から実現を目指し、また、高齢化社会の進展の中で、高齢者が安心して元気に生活できる環境の整備を進めます。

(3) 愛着と誇りに満ちる

まちづくり

人と人が、人と町がこころの交わりと互いに信頼と連携の中で誇りの持てる月形町に育て上げるため、町の文化の向上と人材の育成、町民の行政の参加、町民同士の交流と他地域との交流をさらに活性化するとともに、人と町からの発信を進めます。

具体的なまちづくり

(1) 行政

町政では、町職員や議員だけでなく、町民全員がともに参加・参画し、さまざまな課題の解決に挑戦し、協力しながら執行する、こうした方針に基づき、町

民がそれぞれの立場から意見を交換しあう「ふるさとまちづくり検討会」など、さまざまな意見交換の場がある。町民が丸となって、笑顔でくらすことのできるまちづくりの実現にとりくんでいる。

(2) 生活環境

快適で潤いのある生活環境づくりをめざし、公園整備、道路整備や、町営住宅「こすもす団地」を中心とした住環境の整備に力をそそいでいる。

地震・火災などにも迅速、円滑に対応できる体制づくりはもちろん、犯罪者から女性や子ども、お年寄りなどをまもるため、町民の協力を得た「サポートハウス」を設置している。

近年のまちづくりにおいては、環境対策もまた重要課題であり月形町廃棄物減量等推進審議会を設置し、まちを美しくするた

めのルールづくりに取り組んでいる。

(3) 医療・福祉

高齢化社会が進展する中、「健康で安心して暮らせるまちづくり」は、重要課題として位置づけられている。月形町には、特別養護老人ホームや老人保健施設などの福祉施設がある。また、保険・福祉が一体となった総合サービスの拠点である「月形町保健福祉総合センター」医療の中心を担う「国保月形町立病院」などが相互に連携をはかり、地域に密着した、福祉・保健・医療サービスを提供している。

(4) 商工業

「まちの顔」としての魅力ある商店街づくりをすすめている。消費者ニーズの多様化や都市部への消費の流出など、厳しい社会背景ですが、商工会の経営改

善普及事業や、地域振興事業などへの助成も行い、商業環境の整備に力をいれているほか、建設業などの地域工業育成にも積極的である。

(5) 花のまち

月形町で花づくりが始まったのは昭和四十六年のこと。その前年に始まった米の生産調整、



はな工房

表3 専業別農家戸数

単位：戸

年度	農家戸数	専業農家	第1種兼業	第2種兼業
昭和45年	646	418	143	85
50年	559	282	204	73
55年	522	248	200	74
60年	495	198	216	81
平成2年	426	157	204	65
7年	366	149	166	51
12年	317	112	159	46

表4 規模別農家戸数

年度	総面積(ha)	3%未満	5%未満	10%未満	10%以上	一戸平均(ha)
昭和45年	2,930	183	225	217	18	4.5
50年	3,000	139	152	233	35	5.4
55年	3,150	120	112	246	44	6.1
60年	3,160	111	97	223	64	6.4
平成2年	3,170	85	83	196	89	7.4
7年	3,150	66	65	146	89	8.6
12年	3,150	54	47	127	89	9.9

いわゆる「減反」により岐路に立たされるなか、苫洪の決断であるとともに新たな可能性への挑戦でした。

しかし当時、寒い北海道で花の生産はほとんど未知の取組であり、花き栽培に取りくんだ農家が一丸となって、栽培方法から販路にいたるまで独力で開拓。

平成三年に生産額が一〇億円の大台に乗って以降、北海道でトップクラスの花き生産となり、今日では、その生産力と優れた品質が全国的にも高く評価されています。

月形町では、「花の里・つきがた」をテーマにしたまちづくりをすすめている。中でも、花き生産・農産加工と体験観光を結びつけた「はな工房」「つち工房」「みのり工房」というユニークコンセプトの施設を建設、グリーンツーリズム・農村リゾートなどへの関心が高まる中、まっ



たく新しい試みとして注目されている。

月形町農業の概況

「花の里」として今や全国に知られる月形町ですが、農業生産の約五割を占めるのが米づくり。また、スイカ・メロン・トマトなどの果物・野菜の生産も盛んです。

農家戸数は年々減少しており平成二年に四二六戸あったが平成十二年には三一七戸と二五・六％、一〇九戸減少している。（農家戸数の推移表3）

耕地面積は三・一五〇haで一戸平均九・九haとなっている。（規模別農家戸数表4）

農業粗生産額は三三・二億円（平成十三年度）品目別に見ると、米一七億円（五一・二％）花き八・五億円（二五・六％）果菜四・九億円（一四・八％）

麦類一・五億円（四・五％）畜産一・二億円（三・六％）となっている。

地域農業振興計画

JA月形町では合併問題も視野に入れながら将来を展望した地域農業の振興と豊かな農村づくりを目指し、地域特性をいかした農業の振興と農村の活性化を図り、安定的で持続可能な農村体系を構築する。

基盤となる「米」をはじめ、花き・果菜・肉牛など地域内は多種多様な生産が可能であることから、地域が一体となって特色ある農産物生産に向けた取組を行い、将来の担い手、子ども達が夢と希望を持てる月形農業を確立するため、安主・安心・安定した良質な農産物の生産と供給ができる産地づくりと、健康でより豊かな暮らしを実現す

べく、生産性の向上と効率的な流通販売体制を構築し、生産から販売までの一貫体制によるブランド化、出荷ロットの確保と長期安定出荷体制の確立を目指すため、平成十四年二月に目標年度を平成十六年度とする地域農業振興計画を策定し、農業の振興を図っている。

Ⅰ 基本目標

- (1) JA取扱高三〇億円農業をめざす。
- (2) 安全・安心・安定した循環型クリーン農業の推進による、良質な農畜産物の生産と供給ができる産地づくりにつとめる。
- (3) 農業・農村の振興を図ることを通じて、価値ある食糧の生産に努め食生活や地域産業の活性化に貢献する。
- (4) 農業者や農業関係団体の創意と工夫を生かし、住み良

い地域づくりと地域農業の活性化をはかる。

Ⅱ 具体的目標

- (1) 農業所得目標
戸当たり六〇〇万円程度とする。
- (2) 農地流動化対策
・ 地域内の恵まれた土地資源の有効活用を図る。
・ 遊休農地の解消を目指すとともに保全対策の万全を期す。
- (3) 農業生産対策
・ 稲作
大地のこだわり「情熱米」の生産により、消費者ニーズに対応できる稲作主産地を確立する。(平成十二年一

〇月に最新機器を導入した穀類乾燥調整貯蔵施設「こめ工房」を建設し、良質・良食味の生産に努めている)

・ 特産品
花卉・果菜類については、月形ブランドのもと、市場における評価を上げ産地として確立している。この月形ブランドの更なる発展と飛躍のため、高品質



こめ工房

花卉・果菜類等の安定供給を図ると共に、生産コストの低減、クリーン農業への取組等を実施する。

- ・ 畑作
土づくり、有機物施用によって合理的な輪作体系確立により安定生産に努める。
- ・ 畜産
飼育管理技術の向上、支援システムの充実により効率的でゆとりのある酪農経営を水田農業と並行しながら確立する。
- (4) 排水対策・土づくりと
クリーン農業
・ 減農薬栽培の取組み
・ 合理的な化学肥料の使用と土づくりの推進
・ 排水対策と土づくり
- (5) 安定確収・品質向上のための
輪作体系の確立
・ 稲作と水田を組み合わせた水田の活用により最大の所得を確保するための対策を講じる。

(6) コスト低減対策

- ・供給施設資材の低価格化を図り、安定供給に努める。
- ・販売対策の充実を図り、コスト低減に結びつく所得向上をはかる。

・集団化、機械施設の共同利用を誘導する。

(7) 担い手育成対策・花嫁対策・新規就農対策

- ・担い手育成対策
- ・農事組合、青年部、行政等との連携により農業生産活動等により地域の実情に合わせた多様な担い手を育成・確保する。
- ・花嫁対策
- ・JA、行政、各関係機関と連携を取りながら、多くの出会いの場を設け積極的な参加を促していく。

・新規就農対策

地域の実情に即し、各生産組合、JA、行政、各関係

機関と連携を取りながらとりすすめる。

(8) 組合員の健康管理と農村環境対策

- ・トイレの水洗化・合併処理浄化槽の設置に係る行政支援対策の資金融資

・人間ドックの助成措置の継続実施

・花壇づくりによる花いっぱい運動の展開

新規就農対策事業

1 取組の経緯

平成五年度に「新規就農者誘致特別措置条例」、「新規就農実習農場設置及び管理条例」を、平成八年度には「新規就農者経営開始資金貸付基金条例」を制定し、新規就農のために実習を希望している者を受け入れ、農

業実習の場を提供し、本町の区域内において新たに農業を営み、本町の農業振興に寄与する者に対し、奨励金その他特別な援助を行い、新規就農者の誘致促進を図ってきた。

さらに平成十二年度には新規

就農実習者や新規就農者の招致を促進し、農業生産の新しい担い手の確保を図るために必要な支援内容を充実するため「新規就農者誘致特別措置条例」を廃止し、新たに「新規就農者招致促進条例」を制定し、北海道担い手育成センター、空知中央地区農業改良普及センター、月形町農業委員会、月形町農業協同組合、月形町花き生産組合との連携・協力のもとに本町の新規就農対策を講じている。

2 新規就農までのプロセス

(1) 月形町で花農家をやりたい

募集条件は「花き栽培に関心と情熱をもつ、二二歳～四五歳未満で同居の親族を有する健康な方」

(2) 月形町役場へ申込み

(3) 新規就農実習農場

(三年以内)

花き農家として就農したい方を対象に、栽培技術や農業経営のノウハウを実践的に実習する農場です。農地やハウス、機械施設は無料で提供します。

指導体制は、花き生産組合、農協、普及センター等が一体となっておこないます。

(4) 実習終了(就農の準備)

就農に必要な農地、住宅、機械施設の準備を、特別に有利な条件で支援します。

奨励金・補助金・経営開始資金の貸付・優先的に農地などの斡旋・小規模長期リース農場事業の利用

(5) 月形町の農家として就農

3 新規就農の状況

平成八年に就農した宮下さんをはじめ六名の方たちが花き農家として活躍されています。

樺戸集治監

明治政府は、武力反乱の他、自由民権運動などを基とした政治犯や重罪犯などが急増しはじめ、彼らを収容する施設の設定が急務となってきた。このような中、当時の内務卿伊藤博文は

「未開の地に反乱分子や凶悪犯を隔離し、彼らの労力を駆使して開墾し自給自足させれば、監獄経費の節約になる」と政府に提案しました。

そこで、明治十四年石狩川右岸の未開地に樺戸集治監が設置されました。(月形町に集治監を設置した理由①土壌が農業に適していたこと。②石狩川と樺

戸連山に挟まれた自然の要塞。
③樺戸連山からは獄舎の材料となるトドマツが多く産出できる。
④石狩川の水運で、札幌、小樽との交易が可能なこと。)

初代典獄就任したのが、月形潔(月形町の名前は彼の姓をとって命名された。)で明治十八年激務のため、体調を壊し職を降りた。(典獄―現在の刑務所長。当時は絶大な権力を持ち警察署長や地域の自治まで行っていた。)

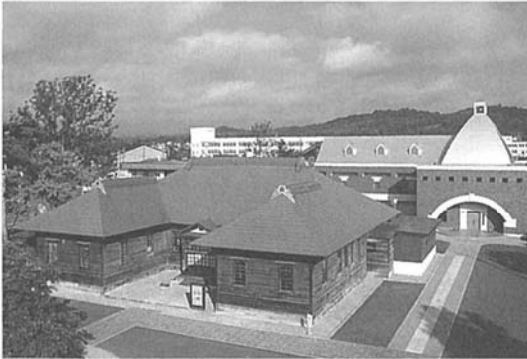
囚人による道路開削や炭坑採掘など、北海道開拓の「前線基地」として、月形町の発展のみならず、道央地区の開拓にも大きな役割を果たしました。

泣く子も黙ると恐れられた樺戸集治監には様々な全国の名囚が在監していた。

五寸釘の寅吉・熊坂長庵・明治のねずみ小僧・稲妻強盗

等また、こういった極悪囚ばかりでなく、自由民権運動弾圧によって投獄された政治犯も多く在監していた。
樺戸集治監は大正八年廃監となった。

旧樺戸集治監本庁舎
明治十四年に建てられた本庁舎は、明治十九年に一旦焼失しましたが、すぐに建て替えられ、現存する建物は大正八年に樺戸監獄が廃監されるまで、事務所として使用された。その後、昭和四十七年まで役場庁舎として使用され、翌年から、北海道行刊資料館として、一般公開されている。



旧樺戸集治監本庁舎

月形樺戸博物館

樺戸集治監の当時の様子を実物資料で展示している。また、有名囚人も多く集監されていたので、そのエピソードなども資料により解説している。

農業研修館

樺戸監獄は農事監獄として、始まっています。月形町の開拓に血の汗をながした先人たち

表5 観光客の推移

単位：人

区 分		平成 10 年度	11 年度	12 年度	13 年度	14 年度
合 計		315,000	294,400	320,000	278,100	270,400
日帰・宿泊別	日帰客	298,000	278,200	303,500	262,800	254,700
	宿泊客	16,600	16,200	16,500	15,300	15,700
居住地別	道外客	4,700	2,600	2,000	1,100	1,700
	道内客	310,400	291,800	318,000	277,000	268,700

の記録を展示しています。

月形町の自然

道民の森月形地区

陶芸館や木工芸館で気楽に工作出来るのが魅力。粘土をこねて形づくりをしたり、板に釘をうちつけたり、林業体験やキノコの観察も出来る体験の森です。

木の香りただよう快適なバンガローや、常設テントサイトがあるので、研習の場としても利用できる。

月ヶ湖

(北海道学術自然保護地区)

月ヶ湖は大沼と小沼の二つからなっていて、多くの湿性植物が生息している自然豊かな水と緑の湿地帯です。周りの森にはたくさんの野鳥たち

が住みバードウォッチングを楽しむことができます。また、春には白鳥が飛来し、その優雅な姿を見せてくれます。月ヶ湖は昭和五十年に北海道学術自然保護地区に指定されました。

観光・イベント

月形町では平成六年月形町振



月ヶ湖

興公社を設立し月形町温泉ゆりかごをはじめとする町有施設の管理・運営に当たり観光客の誘致に努めています。(観光客の推移表5)

観光

(一) 月形温泉ゆりかご

奇数日、偶数日で男女が入れ替わる造りが違う大浴場とそれその露天風呂など充実した設備を有している。

(二) はな工房

はなの里の宿泊研修施設でアレンジフラワーや押し花、ドライフラワーなどが体験できます。もちろん宿泊も出来ます。

(三) つち工房

つち工房は、農業体験施設で、オーナー農園やガラス張りの温室があり自然を肌で感じる事が出来ます。

(四) 多目的アリーナ

土間の体育館。冬でも野球や

サッカーなどの屋外スポーツが楽しめます。アリーナ部分の面積は二千平方メートルで、バレーボール、テニス、ミニサッカーのコートが二面ずつとれる広さ。

(五) 皆楽公園

水と緑が調和した自然公園、町民の憩いの場として利用されています。二七畝の広大な敷地に、遊水池、ボート、バンガロー、バーベキューコーナー、キャンプ場があり、水洗トイレも完備されている。また、ヘラ鮒釣りのメッカとして、多くの太公望が集まっています。

(六) みのり工房

農産物加工施設みのり工房では、おもいきり太陽と大地の恵みをとめ込んだ真っ赤なトマト「月形産桃太郎」を使用したトマトジュース「おはようトマト」を製造しており、全国の皆様に愛飲されている。(製造実績平成十四年度三一九、五九〇本)

イベント

(一) 月形夏まつり

真夏の暑い季節のお祭りでは、例年花火大会や、音楽演奏、ゲーム大会などで盛りあがっている。皆楽公園エリアで行われるためキャンプや温泉の計画と一緒に、また、子供の夏休みの行事として遊びにいつては。

(二) メロンジャム

アマチュアバンドの音楽祭。参加を希望するバンドも多く、選考された選りすぐりのバンドにより、ノリノリのジャムセッションが展開されます。

(三) つきがたSNOWフェス

ティバル

冬の寒い日に野外で行われる雪中運動会、真冬の花火大会をはじめ「A.L.S北海道ウインターズ」選手権「スノーフラッグス」「雪中綱引き」など多くの競技が開催されます。

まとめ

今回レポートした月形町は寒冷地の北海道で花がつくれるとは考えなかったという、そんな時代に花づくりが始まり、以来三〇年「花の里」として開花したまちである。米・花を中心とした農業と、観光で町・商工会・JA・町民が参加して、開かれた協働のまちづくりを目指している我が故郷が、住み良い豊かな街に発展することを願っています。

終わりに取材に、協力頂きました町役場、月形振興公社、JA月形町の皆様にお礼申し上げます。

レポーター

地域農研

特別研究員

佐々木正幸